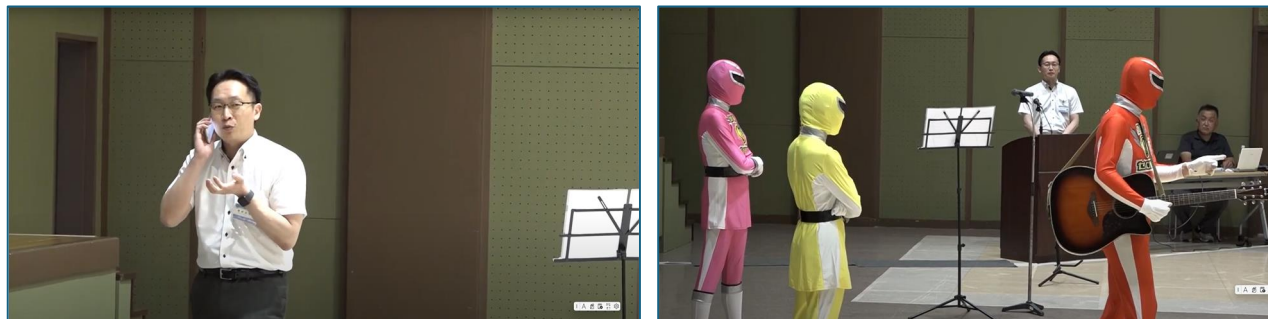


一部画像を加工・修正をして掲載している箇所があります

令和 6 年度 防犯ボランティアフォーラム 中部ブロック 令和 6 年 7 月 2 0 日開催

広田地区安全なまちづくり推進協議会（富山県）



寸劇

「はい、もしもし、儲かる？投資ですか？本当に儲かります？元本保証？詳しいことを教えて欲しいのですが、今は忙しいので後でかけていただいてもよろしいでしょうか。よろしくお願いします。」

「ちょっと待った、その電話、その電話を見せなさい。朝四時に起きて新幹線で富山から来ていますからね。これは今流行りの儲かる詐欺ではないですか、それも国際電話！国際電話には気をつけろ、NTTのナンバーディスプレイで電話に出る前に電話番号を確認できる、さらにナンバーリクエストで非通知の電話を拒否できる。みなさんこの通り、特殊詐欺にかからないためには電話に出ないこと、しかしなかなかそうはいきません。日常生活において電話を出ないという訳にはいきませんが、こういったサービスを利用すれば、185億円もの被害がありますが、減らすことができます。」

私たちは今から歌を歌います、「だまされんジャー」です。みなさんいきなり一緒に歌うのは難しいですが、パワーポイントで歌詞が2行ずつ表示されますので、みなさん一緒に歌ってください。ここにいる2人はその歌の振り付けをします。こちらは中学校2年生です、こちらは主婦です。そこに僕を含めたメンバーでしていきます。

手袋をしてギターを弾く、マスクをして歌を歌う、これほど命をかけて、体を張って特殊詐欺の被害を防ぐ、そこを汲み取って聞いてください。

広田地区 安全なまちづくり 推進協議会



効果音提供: OtoLogic
(CC BY 4.0)

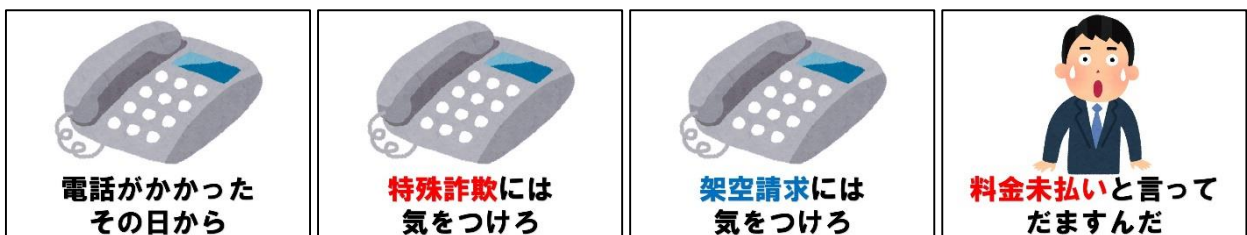
歌



「電話がかかったその日から、特殊詐欺には気をつけろ。お金が戻ると誘いかけ ATM へと急がせる。公共機関の職員の肩書名乗って騙すのだ。」



お金が戻ってくると思ってた、犯人に振り込んでた～。だから言っただろ、お金が戻るうまい話はあるわけない。



電話がかかったその日から、特殊詐欺には気をつけろ。架空請求には気をつけろ。料金未払いと言ってだますんだ。



ハガキ、封書、SNS、裁判沙汰だとおどすんだ。



自分だけは絶対にだまされないと思っていたのに～自分だけは騙されない、1番それが危ないんだ。



特殊詐欺には気をつけろ、孫を名乗ってだますんだ。違う声と怪しむもカゼをひいたと切り返す。



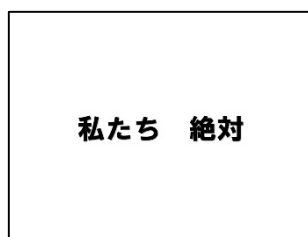
トラブル並べて金の無心、不安をあおりだますんだ。見知らぬ人が訪れてきて、キャッシュカードと現金を盗んで行った。



肉親を装って騙すのはオレオレ詐欺の手口です。ロマンス詐欺には気をつけろ、SNSで近づくぞ。



投資詐欺には気をつけろ、儲かる話しでだますんだ。



怪しい時は#9110 プッシュしろ。私たち絶対たまさレンジャー。」

という曲です。現在は 2 曲目を作成中です。



私たちは富山県富山市というところで、大体りんご型の富山県で約中央部に位置しており、広田地区というところから来ています。

団体の概要

平成31年 4 月、広田地区内の

- 防犯組合
- 自主防犯パトロール隊
- 交番連絡協議会

などが中心となって発足

団体の概要

複数の団体から構成されることで、

- 各団体の合同パトロールを行うなど、各団体の連携強化
- 各々の活動がより効果的で効率的に
- 活動に伴う参加者の負担が軽減

団体は防犯組合、自主防犯パトロール隊、交番連絡協議会が中心になって発足しました。



活動内容としては、先ほど皆様が見ていただいたそのままで、5人揃っての活動です。1番最初にレッドで、2年前に私が1人で立ち上げ、次に中学校2年生、主婦の方、地域の方でブルー、グリーンと5色揃いました。子どもたちからはゴレンジャーのお兄さん方々といったような形で呼びかけられています。また、ジュニアパトロール隊といって子どもたち中心でパトロール隊を作ったりもして、日夜活動をしています。今では広田地区だけではなく、県内様々な所からオファーをいただいて、まさにペットボトル1本、ゴミ袋ひとつで走り回っています。今日もこういう活動をしたら他からオファーがあるかなと思っています。ただ1回でも多く出ることが特殊詐欺の被害防止につながるのであればという気持ちで一生懸命頑張っています。



こちらは大型ショッピングセンターの前で子どもたちを中心にしたイベントです。



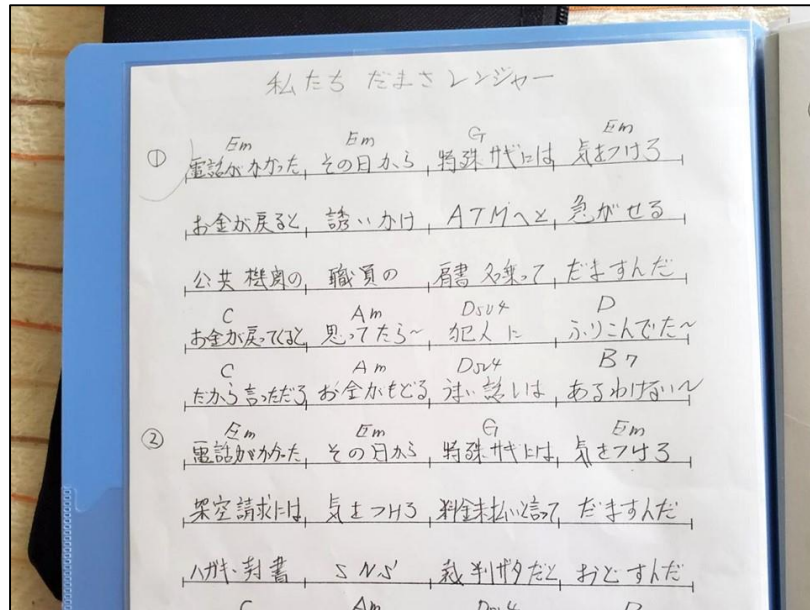
こちらは幼稚園のクリスマス会にお呼びがかり、クリスマスソングを歌ったりしました。おじいちゃん、おばあちゃん、お孫さんのいうことなら聞いてくれるだろうということで、まずは子どもたちに歌ってもらい、家に持ち帰っておじいちゃん、おばあちゃん気をつけてねと注意喚起できるように啓発活動を行ってきました。



こちらの写真は県警音楽隊とコラボをして歌いまして、緊張をしたのですが一生懸命頑張りました。



こちら富山県警のフェスティバルに招待を受けまして、この時は、県警本部長はもちろん県知事も来られ、県知事も一緒に、だまさレンジャーの格好をさせていただいて県全体で盛り上げを図りました。



こちらは歌詞です。少し読み難いですが、歌詞についてはその時の状況に応じてどんどんアレンジをしていくというやり方をしています。

このような活動において、体のキレというのは大事で、日頃より稽古を行っていますので見ていただければと思います。



小さいお子さんたちはゴレンジャー、イコール正義の味方という風に思っていますので、警察官の方には犯人役をしていただき、格闘シーンを入れてみんなの声援のおかげで勝ち、犯人を制圧するといったストーリーの流れで啓発活

動を行っています。

時間も迫っていますので、最後の決めポーズをいたします。



私たち、特殊詐欺 0 戦隊だまレンジャー。



講評

皇學館大学 文学部コミュニケーション学科 准教授 高沢 佳司

大変貴重な発表をありがとうございます。戦隊ものは、インパクトが強く、非常に重要かと常々思っています。老若男女、記憶に残ることが重要で、子どもであっても、ずっとそれを生涯にわたって忘れることはありません。例えば、大人になって防犯に関係のないお仕事に就かれていても、その後定年退職されて、そういえば子どものころそういうのを見たぞ、と思い出します。

それから、詐欺に対してもフォーカスされていて、いろいろと歌も作成されてましたが、「自分だけは騙されない」と思うことが1番危ないのだ、という趣旨の歌詞がありました。我々一般市民は楽観的に見てしまう面があり、多くの人々が騙されずに対処できると思っています。その中で、詐欺はその楽観性につけこむ、ということがあります。このような非常にアピール力が強く、人々の記憶に残る活動スタイルは魅力的です。また、詐欺の形も様々と変化していますので、歌詞がアップデートされていることも有効だと思いました。

鯖江市防犯団体連絡協議会（福井県）



私は福井県鯖江市防犯団体連絡協議会の会長を務めています、堀江と申します。本日はこのような素晴らしい会場で発表の機会をいただきまして、誠にありがとうございます。

福井県鯖江市の紹介



鯖江市は嶺北地方中央部に位置し、メガネフレーム生産の分野で、世界でも約20%のシェアを誇る「めがねのまちさばえ」として栄えています。

人口 67,287人

面積 84.59km²

それでは福井県鯖江市の紹介を簡単にさせていただきます。鯖江市は福井県の嶺北地方の中央にございまして、県庁所在地の福井市の南側に隣接しています。人口は6万7千人、人口増加率県内第1位、人口密度も県内第1位です。市内には北陸自動車道、国道8号線、旧JR線のハピライン、私鉄など交通網も大変発達しており、人の交流が大変盛んでございます。また、産業と致しまして、鯖江のメガネフレーム、そして漆器、繊維

の産業が大変盛んで、特にメガネフレームにつきましては世界シェア 20%もございます。また、全国シェア 96%とメガネの町、鯖江として栄えております。ちなみに私は越前漆器の製造を行っております。3 年前の伊勢志摩サミットで使用された大統領夫人の木製お椀は弊社で作らせていただきました。



それでは、鯖江市防犯団体連絡協議会とはどういう団体かといいますと、鯖江市の防犯ボランティア団体が集まった協議会です。令和元年 12 月に設立をいたしまして、今年度で 4 年目になります。会員は 540 名。設立前は各団体がバラバラで活動していましたが広報効果も小さく、市民にも伝わらないのではとのお声がありまして、各団体長が集まり、より効率よく市民の方の目につく活動を行おうと設立いたしました。鯖江市防犯団体連絡協議会は、7 つの団体がございます。

住民が安全安心に生活できる地域づくり

を目的とした7つの合同防犯団体

- ・ 鯖江市防犯隊
- ・ 鯖江市職域防犯協会
- ・ 鯖江地区防犯連絡所協議会
- ・ 鯖江警察署交番・駐在所連絡協議会鯖江市連合会
- ・ 鯖江警察署少年警察協助員会
- ・ 鯖江市補導委員会
- ・ 青少年健全育成鯖江市民会議



鯖江市防犯隊、鯖江市職域防犯協会、鯖江地区防犯連絡所協議会、鯖江警察署交番・駐在所連絡協議会鯖江市連合会、鯖江警察署少年警察協助員会、鯖江市補導委員会、青少年健全育成鯖江市民会議等の7つの団体がございます。それでは順番に説明をしていきます。

鯖江市防犯隊

●設立経緯

平成25年5月25日に新生防犯隊として発足

「福井県安全で安心なまちづくりの推進に関する条例」に基づき福井県知事から市町安全安心センターとして指定

●主な活動内容

- ・ 地区内の防犯診断、犯罪、災害の予防警戒等パトロール活動
- ・ 遭難、行方不明の捜索
- ・ 祭礼、イベントなどの雑踏警備活動
- ・ 地域安全活動の取り組み



まず鯖江市防犯隊は、私が隊長を務めておりまして10支隊と女性支隊があります。隊員は158名いて、うち女性支隊は20名で活動をしています。

主な活動内容として地区内の防犯診断、犯罪や災害の予防、警戒等のパトロール、遭難や行方不明の方

の搜索、祭りやイベントなどの雑踏警備等を行っております。また女性支隊は、いろいろな団体に出向くなどして、オレオレ詐欺の注意広報や寸劇をやって、わかりやすく広報活動を実施しているところがございます。

鯖江市職域防犯協会・鯖江地区防犯連絡所協議会 鯖江警察署交番・駐在所連絡協議会鯖江市連合会

主な活動

- ・ 特殊詐欺被害防止広報の推進
- ・ 子供・女性・高齢者を犯罪被害から守る諸対策の推進
- ・ 登下校時における児童の見守り活動の推進
- ・ 犯罪の起きにくい社会づくりの推進
- ・ 防犯カメラ設置に向けた取り組み



クリーンアップ活動の様子

続きまして、鯖江市職域防犯協会・地区防犯連絡協議会・警察交番・駐在所連絡協議会の主な活動ですが特殊詐欺の被害防止広報の推進、子ども、女性、高齢者を犯罪から守る諸対策の推進、登下校時における児童の見守り活動など行っております。

鯖江市補導委員会・鯖江警察署少年警察補助員会 青少年健全育成鯖江市民会議

●主な活動

- ・ 登下校時の子どもの安全みまもり活動
- ・ 地区内の量販店、繁華街等における少年の非行防止と補導活動
- ・ 地域安全運動の取り組み活動



POINT

- ・ 団体間交流の機会を積極的に設け、相互の連携強化に努めつつ、各種犯罪を未然に防ぎ、住民が安全安心で暮らせる地域づくりを行う



また、鯖江市補導委員会・鯖江警察署少年警察補助員会・青少年健全育成鯖江市民会議は、同じく登下校の子どもの安全見守り活動、地区内の量販店や繁華街における少年の非行防止と補導活動を実施しているところがございます。

団体間の交流の機会を積極的に設けまして、相互の連携強化に努めつつ、各種犯罪を未然に防ぎ、住民が安全安心な地域づくりを行っております。

活動内容の紹介



- ① 防犯カメラの設置促進活動
- ② 防犯パトロール
- ③ 特殊詐欺等犯罪被害防止広報活動
- ④ 青少年の被害防止活動



それでは私達、連絡協議会はどういった活動をしているかということを、1つずつ説明させていただきます。

1つ目は「防犯カメラの設置促進活動」、2つ目は「防犯パトロール」、3つ目は「特殊詐欺等犯罪被害防止広報活動」、4つめは「青少年の被害防止の活動」です。

①防犯カメラの設置促進活動



問題点

- ◆ 自治体の防犯カメラ設置だけでは、個人の被害防止まではカバーしにくい
- ◆ 設置に費用がかかる



- 地域の犯罪抑止と事件事故の迅速な解決につなげたい
- 「犯罪の起きにくい社会づくり」を進めたい



1つ目の「防犯カメラ設置促進活動」です。防犯カメラの普及は大変重要でございます。自治体で設置する防犯

カメラはありますが、それだけでは個人の被害防止までカバーすることは大変難しく、防犯カメラの設置には費用もかかりますので、我々防犯団体連絡協議会は防犯カメラの普及をさせ、地域の犯罪の抑止と事件、事故の迅速な解決に繋げるとともに、犯罪の起きにくい社会づくりを進めたいといった思いから防犯カメラの設置や防犯カメラ設置費用の一部助成を鯖江市長をお願いをしに行きました。



街頭や個人宅でのカメラ設置数が増えれば、犯罪被害防止効果が期待

↓

「家庭用防犯カメラの設置にかかる補助金制度の策定」に至る

鯖江市家庭用 防犯カメラ 設置事業補助金

鯖江市内の防犯カメラ設置件数を増やすことで犯罪者に対する抑止力とし、犯罪の発生を未然に防ぐことを目的としています。

補助対象者（以下の条件を全て満たす人）

- ・ 鯖江市に住所があり、鯖江市の住宅に居住する世帯主
- ・ 住宅の所有者すべてに防犯カメラ設置についての同意を得ている居住者
- ・ 市税を滞納していない人

※アパートなどの集合住宅や1世帯補助を受けた場合は対象となりません。

補助対象となる防犯カメラ（以下の条件を全て満たすもの）

- ・ 犯罪の発生を抑制するために住宅の敷地内を撮影するもの
- ・ 自己の住宅など必要最小限の範囲を撮影するもの
- ・ 撮影した画像を記録する装置または機能を有するもの

※1戸につき1台を限度とします（仮設住宅は1戸とみなします）。
※盗撮等を自動検知する機能を有した防犯カメラは除きます。
※外から見えずやい位置に防犯カメラの稼働を明示する表示板を設置していただきます。

補助対象経費

- ・ 防犯カメラやレコーダー等の機器の購入費
- ・ 防犯カメラおよびケーブル等の設置工事費

※以下の費用については補助の対象となりません。
・ 記録データを保存および閲覧するためのスマートフォンおよびタブレットの購入・レンタルに関する費用
・ 録画機能付きのパソコン等の購入および設置に関する費用
・ 既存設備の修繕、移設、撤去に関する費用

補助金額

補助率	補助対象経費の1/2の額（1,000円未満切り捨て）
上限額 20,000円	
・ 補助例① 補助対象経費が 30,000円 の場合	
30,000円 ÷ 2 = 15,000円 → 15,000円 (1,000円未満切り捨て)	
・ 補助例② 補助対象経費が 50,000円 の場合	
50,000円 ÷ 2 = 25,000円 → 20,000円 (上限20,000円)	

その他

- ・ **設置をする前に補助申請が必要になります。**
申請書は防災危機管理課に用意してあるほか、市ホームページからもダウンロードできます。
- ・ 先着順です。予算がなくなり次第終了します。

防災危機管理課 防災・危機管理グループ
TEL: 03-2205 FAX: 03-4151
Mail: SO-Security@city.sagam.iw.jp

要望書を鯖江市長に提出したところ、家庭用防犯カメラ設置に関する補助金制度を鯖江市長に認めていただき、一昨年、去年、今年と予算をつけていただきまして、今みなさんに広報をしているところであります。

経過情報

・令和6年4月末までに当該制度を利用して

124台

の新規防犯カメラの設置を実現！！



今後の課題

・補助対象を個人だけではなく事業所まで
拡大すべく、更なる要望書を提出予定

現状に満足せず、
日々前進！！



この制度を利用して、今年4月までに124台の防犯カメラが一般住宅につきました。

今後の課題といたしまして、今までは一般家庭が対象だったのですが、事業所にもつけていただいてはどうかという話を進めております。なぜかといいますと、どこの会社も主要道路に大体立っていますので、そこへつけることによって、犯罪の未然防止と事件事故の迅速な解決に繋がるということで、推進していきたいと思っています。各団体長とお話ししながら進めていこうということになっております。

②防犯パトロール

- 犯罪の予防、警戒等のため、
地区内のパトロール活動を実施
- リュウピーネットやふくいポリスを活用した
実効性のある活動



次は「防犯パトロール」についてです。犯罪の予防、警戒のために、防犯隊では毎週1回パトロールを行っております。また、本年2月に配信された福井県警のアプリ「ふくいポリス」の犯罪情報をもとに、効果的なパトロールを行うようにしています。

警察と合同でのパトロール出発式の実施

- ・ 出発式後、各支隊の青色回転灯装備車両で一斉に市内を巡回、防犯活動を行った。出発式の実施により、各団体員の防犯意識、活動意欲を図っている。



また、各団体の防犯意識の向上を図るために、毎年パトロール出発式をしています。今年も2日ほど前（7月18日）に、鯖江警察署の前で各団体の皆さんに集まっていただき、防犯パトロールの出発式を開催しました。また、みなさまご存知の通り、私たち田舎の方の林道等のグレーチング、みなさん一般家庭の車庫のグレーチング、鉄板が非常に盗まれております。そのため、金属窃盗対策パトロールを先月の6月18日に実施しております。防犯隊は日夜、鯖江の安心安全のためにパトロールに努めています。

③ 特殊詐欺等犯罪被害防止広報活動

さばえつつじまつりや「防犯祭SABAE」等各種イベント会場において、来場者に対して、特殊詐欺防止の呼びかけを実施



3 番目に「特殊詐欺等犯罪防止広報活動」について説明します。鯖江市内のお祭りやイベントの開催に合わせ

て、ご来場の皆様に対し、特殊詐欺防止の広報活動を全員でやっているところでございます。



また、特殊詐欺の相談受付の電話番号を記載したシールを、鯖江市のダイバーシティ推進課と、地区の農家と連携し、地元のスーパーで販売されている野菜に貼り付け、利用客に注意を呼びかけました。

特殊詐欺等にあわないように必ず年金支給日には、鯖江市ダイバーシティ推進課、暴力追放鯖江市民会議と連携して広報活動を行っております。



次に「児童の見守り活動」について説明します。児童や少年が犯罪の被害にあわないために、小学生の登下校時間にあわせて、「いかのおすし」の周知と見守り活動のほか、110番の家に駆け込み訓練を行っております。「いかのおすし」は、みなさんもお存知の通り、「いかない」、「のらない」、「お大声で叫ぶ」、「すぐに逃げる」、「大人に知らせる」です。この「いかのおすし」を、子どもたちに周知しています。

無施錠自転車の見廻り・注意喚起を実施

中高生の自転車盗被害多数！！
学校の先生にも呼びかけ、**鍵かけ習慣**の徹底を図る



中高生には、自転車の窃盗に関する注意喚起を行っております。福井県では、自転車盗難が非常に多く、警察とともに中学校や高校を訪問して、無施錠の自転車に対し自転車防犯の診断票を取り付けて、注意喚起を図っております。

後継者、若い人の参加促進、活動メンバーを確保するための工夫

- ・ 地域において役員等を務めている会員が多数！！
ネットワークを活用し、防犯ボランティア活動に積極的なメンバーの確保に当たっている
- ・ 県警ツイッターなどを活用！！
情報発信を積極的実施し、防犯ボランティア活動に興味を持ってもらえるよう工夫している。



私たち協議会の各団体は、後継者、若い人たちの参加促進、活動メンバーの確保するための工夫といたしまして、地域において役員を務めている会員が多数おられますが、若い人たちに私たちの活動を理解していただき、防犯ボ

ランティア活動に積極的に参加してほしいと呼びかけております。

最後に、令和 2 年に発生したコロナで、隣近所や地区全体のコミュニケーションが大変希薄になっております。協議会ではしっかりと連絡、連携を取り合いまして、市民に安全安心していただく活動を進めていこうと考えています。ご清聴ありがとうございました。



講評

皇學館大学 文学部コミュニケーション学科 准教授 高沢 佳司

家庭用防犯カメラを市の予算で上限 2 万円を補助するというのは有効だと思います。防犯カメラを設置するのは、経済的に苦しい、どうしたら費用を捻出したらいいかと思うところで、補助があれば非常に現実的になってきます。防犯のひとつのポイントとして、カメラの監視があると思わせれば、犯罪の件数を下げていくことになります。

それから、シールを活用したり、7 団体で連携したりというのも魅力的と感じました。人材探しでも、7 団体の中に色々な方がいらっやると繋がりやつてが広がりますので、相乗効果があり、連携がしやすくなるのではないかと思います。

APP あいちパトロールピーポー（愛知県）

2024.07.20

中部ブロック防犯ボランティアフォーラム

若者世代の地域防犯参画

制作・Aichi Patrol People

近藤 大希 眞島 大嘉 三宅 優貴



私たちは、「若者世代の地域防犯参画」をテーマに報告します。

愛知県から参りました「APP」代表の近藤と、副代表の眞島です。本日はよろしくお願いします。

-目次-

- APPとは
- 今年度の活動実績
 1. 青色防犯パトロール活動
 2. 警察本部や県との連携
 3. 昭和警察署との連携
- 今後の課題

中部ブロック防犯ボランティアフォーラム

2

-APPとは-

愛知県名古屋市昭和区を中心に活動する
大学生によるボランティア団体です。

メンバーは、
中京大学・名城大学・名古屋女子大学の
3大学名32名で活動しています。



【A】Aichi 【P】Patrol 【P】People



マスコットキャラクター
「ほこやん」

中部ブロック防犯ボランティアフォーラム

3

こちらが目次です。私たち「APP」の紹介をさせていただいた後に、活動内容、今後の課題、課題に対する対策を説明させていただきます。

はじめに、私たち「APP」は愛知県名古屋市昭和区を中心に活動する、大学生による防犯ボランティア団体です。メンバーは主に、中京大学、名城大学、名古屋女子大学の3大学、今は33名で活動しています。私、近藤や眞島も中京大学に在学する現役の大学生です。「APP」とは、「愛知パトロールピープル」の略語になります。

-APPとは-

愛知県名古屋市昭和区を中心に活動



私たち「APP」は、愛知県名古屋市昭和区を中心として活動しています。昭和区は都心近くにありながらも、興正寺公園などの自然環境も多く残っており、また、地下鉄鶴舞線、桜通線が区の中央部を東西、南北に貫通しているなど、都市基盤も整備されており、快適性、利便性に恵まれた地域です。また、大学なども数多く、中高層マンションなども立ち並び、住宅や商業地区となっております。こちらは、私たちの活動の中心である昭和区、八事地区を中心とした地図となっております。私たちが在学する中京大学、名城大学、南山大学のほか、小中高校が集中した地区となっております。また、地下鉄が2路線に交わり、日進市や豊田市へ抜ける国道153号線も近くにあることから、自動車の交通量も非常に多くなっております。

-APPとは-

発足の経緯

平成22年7月の発足当時、県内の20歳代以下の防犯ボランティア団体は全体の1%にも満たない状況
→防犯ボランティアの高齢化・固定化が危惧された。

愛知県警察が大学生に対して若者世代の防犯意識の醸成を図り、防犯ボランティア活動の活性化と定着化を促進するモデルケースとして発足

中部ブロック防犯ボランティアフォーラム

5

私たち「APP」は平成22年の7月に発足し、今月で丸14年目となります。発足当時は、愛知県内の20歳以下、若者世代の防犯ボランティアは全体の1%にも満たない状況でした。これらの状況から、防犯ボランティアの高齢化、固定化が危惧されていきました。そこで、愛知県警察が大学生に対して、若者世代の防犯意識の情勢を図り、防犯ボランティア活動の活性化と定着を促進するモデルケースとして発足しました。

-活動内容-

1. 青色防犯パトロール活動



地元企業



APP

中部ブロック防犯ボランティアフォーラム

6

次は、「活動内容」の紹介です。最初は、「青色防犯パトロール活動」です。地元企業と「APP」がタッグを組んだ活動になります。

-青色防犯パトロール活動-

「防犯パトロールにおける車両等貸出に関する取決め書」
を地元企業と締結し、借りた社用車でパトロールを実施



中部ブロック防犯ボランティアフォーラム

7

私たち「APP」は、地元企業と、防犯パトロールにおける車両貸出に関する取決め書を締結し、社用車を借りて、青色防犯パトロール活動を月1回ほど行っております。令和4年の9月から行っており、今年の9月で丸2年になります。写真のように、企業の方から車両をお借りして、上に青色回転灯を載せて、マグネットを車両に貼り、防犯パトロールの活動に使っております。

-青色防犯パトロール活動-

主に子どもの集団下校時の
見守りが中心で、昭和区内の
小学校や公園の周辺を重点的に
パトロール



企業と学生ボランティア団体が連携し、社用車を用いて青色防犯パトロール活動を運用することは全国初の取り組みです。

中部ブロック防犯ボランティアフォーラム

8

子どもの集団下校時の見守り活動を中心に行っており、昭和区内の小学校や公園など、子どもの集まる場所を重点的にパトロールをしています。こちらのモデルケースの様に、企業と学生ボランティア団体が連携し、社用車を用いて青色防犯パトロール活動を運用することは、全国初の取り組みとなっております。

-青色防犯パトロール活動-



車両を使用したパトロール



徒歩よりも多くの
エリアを巡回できる

青色回転灯の搭載により
犯罪抑止・安心感の向上

中部ブロック防犯ボランティアフォーラム

9

車両を使用したパトロールにより、徒歩よりもより広いエリアの巡回を短時間で、効率的に行うことができます。また、目立つ青色回転灯の搭載によって、犯罪抑止効果や周囲の方々の安心感の向上に効果があります。実際に、私達がパトロールしている際も、対向車や歩行者からの視線はかなり感じております。また、下校中の児童にも手を振られ、視覚的な効果というのは非常にあると考えております。

-活動内容-

2. 警察本部や県との防犯啓発活動



警察本部



APP

中部ブロック防犯ボランティアフォーラム

10

次は「警察本部や県との防犯啓発活動」です。警察本部と「APP」がタッグを組んだ活動になっております。

-警察本部や県との防犯啓発活動-

「四季の安全なまちづくり県民運動における啓発活動に参加」



春（R5.5）オアシス21



夏（R5.8）名古屋港水族館

愛知県安全なまちづくり推進協議会主催の啓発キャンペーンで
警察本部や県と連携して啓発品の配布等を実施

中部ブロック防犯ボランティアフォーラム

11

警察本部が参加するイベントに不定期で参加させていただいております。

-警察本部や県との防犯啓発活動-

「イベントの運営補助」



すこやかフェスタ（R5.10）日本ガイシホール



SDGsチャレンジ（R6.3）東海市内

警察本部が参加するイベントに不定期で参加
主に小学生を対象とした防犯教室を運営

中部ブロック防犯ボランティアフォーラム

12

左側の写真は、地元テレビ局が親子向けに開催したイベントで、警察広報ブースの運営をお手伝いした時の写真です。右側の写真は、愛知県東海市にある「東邦ガスエネルギー館」で開催されたイベントで、小学生に対して、防犯ブザーの使い方や不審者に襲われた時に大声を出す練習をしている写真です。

-活動内容-

3. 昭和警察署との防犯啓発活動



昭和警察署



APP

中部ブロック防犯ボランティアフォーラム

13

次は、「地元警察署との防犯啓発活動」です。昭和警察署と「APP」とがタッグを組んだ活動となっております。

-昭和警察署との防犯啓発活動-



「合同パトロールの実施」

昭和警察署とAPPの合同で徒歩パトロールを不定期で開催

大学周辺を徒歩でパトロールし、学生が多く利用する駅構内にて痴漢防止ポスターの貼付や啓発活動を実施したり、駐輪場にて自転車盗難の警戒を実施

中部ブロック防犯ボランティアフォーラム

14

昭和警察署生活安全課の方々と、合同パトロールを不定期で開催しております。大学周辺を、徒歩でパトロールし、学生が多く利用する名古屋市市営地下鉄八事駅で、痴漢防止ポスターの貼付や啓発活動の実施、駐輪場での自転車盗難の警戒など多岐にわたる活動を行っております。先日、実際に行われた合同パトロールでは、大学の近くにある交番からスタートし、近隣の小学校や子どもたちの集まる児童公園の周辺を重点的に巡回しました。また、徒歩で歩くことにより、街をじっくり見ることができたため、死角になりやすい場所や見通しの悪い場所を再確認することができました。

-昭和警察署との防犯啓発活動-

「防犯教室への参加」



住宅展示場で開催された
防犯教室への参加

「イベントの運営補助」



昭和区民祭りにおける
警察広報ブースの運営補助

中部ブロック防犯ボランティアフォーラム

15

そのほかにも、住宅展示場で開催された防犯教室に参加させていただきました。普通のガラス、網入りガラス、防犯ガラスなど、様々なガラスの割れやすさを体験させていただきました。また、昭和区民祭りにおける警察広報ブースの運営のお手伝いもさせていただきました。ミニ白バイと写真撮影できるブースでは、区民の方々と実際に触れ合うことができました。

-昭和警察署との防犯啓発活動-

「啓発ポスターの作成」



昭和区内の商業施設への
ポスター掲示

「啓発活動」



呼びかけやポスターなどを
用いた啓発活動

中部ブロック防犯ボランティアフォーラム

16

また、昭和区内の商業施設に「APP」が作成した特殊詐欺の啓発ポスターを掲示しました。合同パトロールでもお話ししました駅構内への痴漢防止ポスターの掲示や呼びかけも行いました。先週の金曜日にも、大学近くのショッピングセンターにて、自転車盗難の警戒を呼びかける啓発活動を行いました。来場者の方に、補助錠を配付して

自転車盗難に気をつけて下さいと啓発活動を行いました。

-今後の課題-	-今後の課題-
メンバーの確保 団体人数の縮小 発足当時は3大学からメンバーが構成されていたが、現在はほぼ中京大学の学生で構成されている。 全盛期には140名を超えるメンバーがいたが、現在は30名前後となってしまっている。 中部ブロック防犯ボランティアフォーラム 17	メンバーの確保 メンバーの固定化 各種活動の参加者が特定のメンバーに固定化しており、団体人数を活用できていない。 イベント等の参加協力を頂いた場合にも、参加人数が集まらず、お断りせざるを得ない場合もある。 中部ブロック防犯ボランティアフォーラム 18

次は「今後の課題」です。「APP」の現状の課題は、やはりメンバーの確保です。発足当時は、3大学からメンバーから構成されていましたが、現在は、ほぼ中京大学の学生で構成されています。割合でいうと、9割以上が中京大学で占めているような現状となっております。また、全盛期には140名を超えるメンバーがいましたが、現在は30名前後と4分の1以下となっています。その中でも、各種活動に参加するメンバーが固定されており、団体人数が十分に確保できていないと感じています。実際、イベントなどの参加協力をいただいた場合でも、参加人数が集まらず、お断りせざるを得ないというケースもあります。

-課題に対する対策-

メンバーの確保

新規メンバーの獲得に向けた勧誘チラシの配布や、既存のメンバーに向けて気軽に参加しやすい(ex. 拘束時間が短い)活動を積極的に設定し、メンバーの参加を促そうと考えています。



中部ブロック防犯ボランティアフォーラム

19

そこで、課題に対する対策として、大学の新生が入学した4月に、新規メンバーの獲得に向けた勧誘チラシの配布を行いました。また、既存メンバーに対しても、気軽に参加しやすいように、青パト活動は普段2時間ですが、1時間に減らすなど、拘束時間が短い活動をしたり、参加しやすい活動を積極的に設定し、メンバーの参加を促そうと考えています。

以上で、「若者世代の地域防犯参画」について「APP」の報告を終わります。今後とも、地域の安全のために、若者世代として頑張っていきたいと思います。ご清聴ありがとうございました。

2024.07.20

ご清聴ありがとうございました。

中部ブロック防犯ボランティアフォーラム

若者世代の地域防犯参画

制作・Aichi Patrol People

近藤 大希 眞島 大嘉 三宅 優貴

講評

皇學館大学 文学部コミュニケーション学科 准教授 高沢 佳司

私は普段大学で仕事していますので身近に感じました。以前、名古屋市千種区にもおりましたが、あの辺りは、小中学校、高校、大学があり、住宅も多いので、登下校のパトロールが必要となってくる地域だと思います。大学の多い地域だからこそ、学生さんは有効に活用できると思います。現在は、規模が縮小されているというお話がありましたが、企業と連携した活動、次の世代や後輩を育てるという大学間の共同活動も関心が深いところです。

参加されているイベントの種類も多く、ガラスの割れやすさの検証をしたりするところなど、魅力的な活動をしていると感じました。

ブリッジ見守り隊（岐阜県）



BRIDGE
NPO法人ブリッジ

美濃加茂市で活動をしている「NPO 法人ブリッジ」の池浦です。本日はよろしくお願いします。

まず、私たちの法人について、少し紹介させていただきたいと思います。

ブリッジについて

- ・ 令和3年11月に設立
- ・ 美濃加茂市を中心に活動を開始
- ・ 理事構成
 - 日本人 6名（理事4名 顧問2名）
 - ブラジル人 6名
 - フィリピン人 1名

ブリッジの目的

日本で暮らす外国人の困り事を解決する事業を行うことで、外国人コミュニティと日本人たちの架け橋となり、多文化共生推進を行い、だれもが住みよいまちづくりに寄与することを目的とする。



「ブリッジ」は令和3年の11月に設立しました。私達は、美濃加茂市を中心に活動していますが、美濃加茂市は人口が5万7千人ほどで、その内の1割弱が外国人です。スライドのとおり、私達の理事の構成の半分が日本人で、半分は外国人となっています。これは美濃加茂市の特性である多文化共生を活かしていきたいという願いから、生まれた法人となっているためです。

「ブリッジ」の目的は、日本で暮らす外国人の困りごとを解決する事業を行うことで、外国人コミュニティと日本人たちの架け橋となり、多文化共生推進を行い、誰もが住み良い街づくりに関与することです。



理事長

ゴンサルベス ダビ アウグスト

- ブラジル生まれで、9歳の時日本に両親と来日。
- 牧師として活動している中で、日本で暮らす外国人達と日本人との関係をもっと円滑なものにしたいという願いの中から、ブリッジ誕生の発起人となった。

私達の理事長は、ゴンサルベス ダビ アウグストという名前で、ブラジル生まれです。9歳の時に、両親と来日しました。牧師として、美濃加茂市で活躍をしています。日本で暮らす中で、外国人たちと日本人との関係性をもっと円滑なものにしたいという願いの中から、「ブリッジ」誕生のきっかけとなった人です。彼は、20年以上牧師として活動しており、教会には80人から100人ほどのメンバーがいっていますが、まずこの方々からいろんな相談がありました。美濃加茂市で暮らしていく中で、こういった課題があるとか、日本人たちとの関係性をもっと良くしたいのだから、ということをしてほしい、という相談がたくさん集まっていく中で、何かできないかと思うようになりました。そして、コロナのパンデミック中に、ちょうど彼が市役所で通訳として働いていたのですが、そこで知り合った多文化共生について熱い思いを持った日本人の方々と連携して、「ブリッジ」が生まれました。

ブリッジの主な活動内容

- 外国人を対象とした相談窓口
- 防犯活動
- サッカースクール
- 多文化交流フェア
- ドリームフェア など

相談窓口に関して

令和5年度 実績

令和5年度 相談数	369件 (令和6年5月までの合計数 700件)
主な相談内容	・ 在留資格関係 ・ 葬儀上関係 ・ 医療通訳関係 ・ 事故・保険関係 ・ 身分関係 (DV・離婚・虐待など)

次は、「ブリッジ」の主な活動内容です。外国人を対象とした相談窓口を、火曜日から金曜日に設けております。それから本日、メインでお話させていただく防犯活動、子どもたちを対象としたサッカースクール、「多文化交流フェア」という大きなイベントを年に1回、あとは「ドリームフェア」という外国人の高校生を対象としたイベントを行なっております。相談窓口には、令和5年度は360件の相談がありました。こちらのデータは、今年5月のデータとなっておりますが、7月現在のデータによると、これまで合計800件の相談がありました。主な相談内容は、在留資格の関係

であったり、弁護士関係、通訳関係、事故や保険の関係、あとは DV であったり離婚や虐待などの相談も多くありました。

<事例紹介①>

相談者	40代 男性 小牧市在住 50代 女性 美濃加茂市在住
相談内容	・ベトナム人から携帯電話の契約のために名義貸しをしてほしいと言われた。代わりに5万円ほどの報酬がもらえると約束され契約したが、後日、携帯料金支払いの督促状が家に届き、ベトナム人とも連絡が取れなくなり、警察に本人が通報。今後どうすればいいのかとの相談。
対応	すでに警察に相談済みだったので、刑事さんとブリッジの相談員が話をしました。名義貸しの違法性について指導をいただき、本人に伝えたいので、今後の対応に関しては、弁護士を立てて対応していく方向となりました。

<事例紹介②>

相談者	20代 女性 岐阜県
相談内容	・ブラジル人女性の相談者。旦那が、自分と体を群馬に残して滋養に戻り、仕事もなく、お金もないので助けてほしいとの相談。
対応	美濃加茂市の派遣会社に相談し、連携を一時に保護。仕事を探し、保育園を探し、アパートも契約して、自立できるように支援しました。

一つの事例として、先ほど特殊詐欺の事例がたくさん出ていたと思うのですが、こちらは外国人同士の詐欺の事例です。ベトナム人がブラジル人の工場で働いている方々に、携帯電話の契約のために名義貸しをして欲しいと頼んできた、という相談がありました。スライドでは、相談者は2名となっていますが、私達の受けた相談では既に80件を超えています。名義貸しをする代わりに、5万円ほどをベトナムの方からもらえる約束をして契約をするのですが、後日、携帯料金の支払いの督促状が家に届き、名義貸しを頼んできた方との連絡も取れなくなり、結局自分が払うことになります。警察の方に相談したところ、やはりそのような詐欺は多いようで、こちらの法人にも相談がいくつかありました。この件は、相談者本人の方が、警察に相談済みだったため、刑事さんと「ブリッジ」の相談員が話をしました。まず、相談者には名義貸しの違法性について指導をして、今後は、弁護士を立てて対応をしていく方向となりました。こちらの事業では、振り込め詐欺以外にも、このような詐欺もいくつか扱っております。

防犯活動

- ・加茂警察署との連携活動
- ・年に何度かコノミヤ前で、振り込め詐欺への注意の呼びかけや、車上荒らし注意への呼びかけを行っている。



防犯活動は、毎年 2、3 回ほど加茂警察署との連携した活動を行っていて、「コノミヤ」というスーパーの前で、振り込め詐欺への注意の呼びかけや、車上ねらいへの注意呼びかけを行っております。



防犯活動の様子

こちらが、スーパーの前で防犯活動をしている時の様子です。これとは別に、私たちの事務所は、銀行の前に事務所を設けているのですが、月に 2 回ほど銀行の前で振り込め詐欺に注意を促す呼びかけや、子どもたちの下校時に道路に出て、子どもたちの見守りを行っております。



サッカースクールの様子



多文化交流フェアの様子

こちらはサッカースクールの様子と「多文化交流フェア」の様子です。これらのイベントは日本人、外国人関係なく、全員を対象としたイベントを行なっています。サッカースクールも、「多文化交流フェア」も警察の方が実際に足を運んでくださって、外国人の住民に対してすごく優しく声をかけてくださいます。ブラジルやフィリピンもそうなのですが、外国では警察は、怖いイメージがあり、日本に住んでいる外国人の方は自分の国の警察のイメージが強いので、日本の警察も怖いのではないか、というイメージを持っています。それを壊していこうという目的で、実際に地域の警察の方々が参加して、イメージの払拭のために声をかけ、「警察は怖くないですよ」、「市民を守るためにいるんですよ」

というメッセージを発信しています。このようなイベントは、もちろん「多文化交流」という、お互いの文化を知り合う中で交流していくという目的もあるのですが、日本の方々と外国の方々がより仲良く、暮らしやすくしていくためのイベントとなっております。

今後の活動について

- 今年度は、各機関とより連携を取りながら、幅広く活動していく予定です。



今後の活動についてですが、今年度は、警察や行政などの各機関と連携をとりながら、幅広く活動をしていく予定です。今年も、「多文化交流フェア」を11月に開催する予定でして、美濃加茂の警察の方々、岐阜県警の方、入国管理局の方も来てくださいます。このような活動の中で、防犯もそうですが、日本人、外国人がお互いに尊重し合って、より深く関わって欲しいと思いますので、皆さんもぜひ、あたたかく見守っていただければ嬉しいです。

本日は以上となります。ありがとうございました。

講評

皇學館大学 文学部コミュニケーション学科 准教授 高沢 佳司

外国人が多い地域で、海外の警察という組織は怖いイメージがありますが、日本の警察には当てはまらないので、どうやって怖いイメージを払拭していくか、というお話でした。例えば地域のお祭り、サッカーのイベントで、直接一緒に活動して先入観を変えるという事が一番です。気持ち的に遠い集団は、怖いとか、付き合いづらいとか思うのですが、一度関わってしまえば、怖いイメージを早く打開できるので、参加しやすいイベントを開催するのは魅力的だと思いました。

ブラジルと日本は明治以前から行き来があり、有名なところでは、前田光世さんがブラジルに渡って柔術を伝えた、という歴史もあります。そういうスポーツを通じて交流できる、という可能性もあります。

また、外国人の法律相談窓口も備わってきていて、法律に関する理解も深めていくところも、特色的で魅力的な活動をされている、と思いました。ありがとうございました。